映像メディア英語教育学会(ATEM) 第 14 回北海道支部大会

テーマ：英語教育／研究の新たな扉を開く！
～そのアイディア、今こそ発表してみませんか？～
日時：2026 年 2 月 7 日(土)　13 時～17 時
会場：ハイブリッド開催
　対面会場：小樽商科大学札幌サテライト中講義室
　　〒060-0005 札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 sapporo55 ビル 3 階
　　（ビル 1 階、花屋横のエレベーターから 3 階へ。階段では行けません）
　オンライン会場：Zoom ミーティング
　　参加申し込みフォーム↓（2/6 まで受付予定）
　　https://forms.gle/beUxUKjxKPHN7XBe8
参加無料

【タイムテーブル】

12:30　開場
12:55　開会（北海道支部長ご挨拶）
13:00　FUJIE Yoshiyuki（ATEM 特別功労賞）　西日本支部（オンライン）
　　“Learning from ATEM's 30-year History”
13:30　Bernard McEntee　北海道支部・小樽双葉高校（現地）
　　“The ジョウイ of teaching language abroad in the age of AI”
14:00　吉野康子　非会員・東京家政大学（現地）
　　「AI 時代の CLIL の可能性」
14:30　東郷多津　非会員・京都ノートルダム女子大学（現地）
　　「MACETO モデルによる英語授業設計の再考」
15:00　遠藤未央　北海道支部・藤女子高校（未定）
　　「文学作品にあわせる洋楽」
15:30　佐藤亜美　北海道支部・名古屋商科大学（現地）
　　「映画に見られるインポライトネス：英語教材として可能性」
16:00　松田愛子　北海道支部・北海道大学（現地）
　　「ドラマ劇中にある映画名セリフ引用と教材としてのシーン集づくり」
16:30　情報交換・お知らせなど
17:00　閉会

参加申込フォーム→

【発表概要】

13:00 オンライン
FUJIE Yoshiyuki（ATEM 特別功労賞）　西日本支部
“Learning from ATEM's 30-year History”
　I'd like to look back on ATEM's 30-year history, revising a commemorative speech I gave at the ATEM International Convention Eve Party in September 2025, for this presentation. By learning about ATEM's founding spirit, the aspirations of its founders, and its early activities, you'll understand how much of today's ATEM owes to the ideas and efforts of our predecessors. And perhaps we'll see the path ATEM should take in the future. Let's enjoy a trip to the past of ATEM, shall we?

13:30　現地
Bernard McEntee　北海道支部・小樽双葉高校
“The ジョウイ of teaching language abroad in the age of AI”
　I'll explore what it means to teach abroad in this age of AI through an auto-ethnography of my past three years working in a private school and becoming a licensed teacher. I'll show how technology and current events intersect, rapidly altering what's required to thrive abroad. I'll show my workflow, uncovering how students can also punch above their weight. I've chosen to use the multifaceted meanings of ジョウイ as a lens to look at the work and how AI functions as both a quick and dirty prosthetic and how language skills can still matter in the 2020s and beyond.

14:00　現地
吉野康子　非会員・東京家政大学
「AI 時代の CLIL の可能性」
　CLIL(内容言語統合型学習)は、外国語学習と他教科の内容などの本物の内容を統合させて、そこに思考をともなう活動と協同学習、国際理解を取り入れた外国語教育である。発表者は、教員養成の教育の中で、「小学校英語指導法」「小学校英語内容論」の授業において CLIL を取り入れた指導法を考案している。この AI 時代だからこそ、オーセンティックな教材により学習者の動機づけや異文化意識が高まる可能性があり、その授業実践を紹介したい。

14:30　現地
東郷多津　非会員・京都ノートルダム女子大学
「MACETO モデルによる英語授業設計の再考」
　「主体的・対話的で深い学び」の方向性は，次期学習指導要領においても変わらず掲げられる予定である。学習者が主体的に学び続けるためには，教えることを重視した授業から学びを主体とした授業設計へパラダイムシフトが必要である。本発表では，学びの志向性に着目し，学ぶ意味から設計する MACETO モデル（西之園・望月 2004）を援用し，すでに実践された英語の授業について，主体的な学習がどれほど実現されているか再考を試みる。

15:00　未定
遠藤未央　北海道支部・藤女子高校
「文学作品にあわせる洋楽」
　洋楽オタク。前職での映像翻訳経験。だからこそ、洋楽と洋画を使った授業展開をすることで自分のアイデンティティを確立してきた。しかし先日職場で自分のものと酷似する授業を行う教員がいることに気づき、このままでは自分の個性を発揮した授業とは言えなくなる、という事態になった。そこで、新たに挑戦している授業スタイルが、「文学作品を英語で読む」というものである。大学生であれば、英文講読の授業に特別感は無いと思うが、高校生はこれまで受験を乗り越えるための英語が中心だったため、なかなか新鮮な授業になった。とりあげたのは Alice Walker で、アメリカにおける黒人の歴史を文学から学び取ることを目標に、文学を読むだけではなく、さらにそこから洋楽につなげていこうとした試みを発表する。この流れで（文学⇒洋楽）生徒の心をつかむのに最適な選曲はどんなものがあるか、今でも模索中である。

15:30　現地
佐藤亜美　北海道支部・名古屋商科大学
「映画に見られるインポライトネス：英語教材として可能性」
　本発表では、映画『English Vinglish（マダム・イン・ニューヨーク）』（2012 年）で見られる英語学習者が経験するインポライトネス（非協調的なやり取り、失礼な言動、言語的攻撃）の分析をもとに、Mugford (2019)が提唱する教授法の教材として同映画の活用を検討する。Mugford (2019)の教授法は、Illustration-Interaction-Induction（Carter and McCarthy 1995）のモデルを援用し、学習者が気づきを通して語用論的知識を学習する方法であり、コミュニケーション能力の育成を重視した英語教育での応用が期待できる。

16:00　現地
松田愛子　北海道支部・北海道大学
「ドラマ劇中にある映画名セリフ引用と教材としてのシーン集づくり」
　本発表は、映像作品にある引用の扱いを紐解き、会話に彩を与える技術を磨きながら、英語をさらに学び、異文化理解を深めたいと思わせるような授業づくりの提案である。 2015 年、大統領選候補だった政治家ヒラリー・クリントン氏は演説を『スター・ウォーズ』シリーズの名セリフ"May the Fourth Be with You"で締めくくり、話題となった。会話やスピーチにおいて、相手との距離を縮めるツールのひとつに、様々なソースからの引用がある。英語圏では聖書、マザーグース、シェークスピアが定番で、ことわざや偉人の名言などもよく活用されるが、中でもとりわけ親しみやすいのが映画名セリフである。 今回は主に海外ドラマの劇中に登場する、他の映像作品の引用にスポットを当て、いわゆる「元ネタ」とその使われ方を見て、引用する価値を考える。また、意訳となりがちな字幕・吹替訳を比較し、元セリフからの再現度評価も試みる。引用シーン集の教材化プロジェクトの構想も紹介したい。

20260105 現在
支部サイト公開版